



# 学校だより

西寺尾第二小学校

7月

令和5年6月25日



## 「学校は小さな地球」

校長 宮崎 里子

「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」神奈川県審査会に学校代表として参加した6年生のスピーチをご紹介します。(6月23日 神奈川公会堂にて)

### 「戦争の無い平和な社会をめざして」

私は、去年の夏にベトナムから日本に来ました。言葉も文化もわからなくて、日本がすごく怖かったです。

ベトナムにいた頃、私は市民団体に所属していました。医者である祖父から戦争の話を聞いたからです。1970年ベトナムに落ちた爆弾で多くの方が亡くなりました。私は実際に戦争を体験した祖父から、この話を聞き、戦争のない平和な世界をつくりたいと強く思いました。そこで、「戦争のない平和な国をつくろう」学校の友達にチラシを配り呼びかけました。この活動を行うことで周りの人の平和への意識を高めることが出来ました。一人ひとりの小さな取組が世界平和に繋がるのだと実感しました。

日本に来たとき、日本が「怖い」と感じていた理由は、日本のことを知らなかったからです。学校の友達と楽しく過ごしたり、多くの先生と関わって話をしたりすることで、相手のよさが分かり日本を好きになりました。

学校には、いろいろな国の友達があります。まるで小さな地球のようだと思います。たくさんの人と関わり、相手を知ることで戦争のない平和な世界をつくることができます。

「戦争のない平和な世界をつくろう」と呼びかけることも大切ですが、どこの国にいても、どんな環境でも、近くにいる人に思いやりの気持ちをもって接することがとても大切だと思います。まずは、自分の周りの人を笑顔にできるように、一人ひとりが自分にできることを考えることで平和な世界づくりにつながると思います。

世界中の人々が助け合うことが戦争のない平和な世界をつくれます。

私は、将来、エンジニアか医者になり、恵まれない子どもたちの力になりたいという夢があります。

世界中の人がそれぞれ夢をもっています。その夢を守るために、戦争のない平和な世界を一緒につくりましょう。

このお子さんは昨年8月に来日し、日本語は全く話せませんでした。この1年の成長を思うと、本人のたゆみない努力と、ご家族、友達、教師達のたくさんのサポートがあったことが分かります。

スピーチの中で特に、「学校は小さな地球」と言うセンテンスが私は大好きです。人種だけではなく、性格や考え方、嗜好等多岐にわたる様々な「小さなひと」が真剣にけんかしたり、仲直りしたり、一緒に感動したり・・・「小さな地球」では毎日、心動かされる連続の物語が展開されています。(先日お亡くなりになったのっぼさん(高見のっぼさん)が子どもたちのことをリスペクトを込めて「小さなひと」と呼んでいます。私はとても気に入っている表現です。)

私は6年生の校内選考会にも出席をしましたが、子どもたちが一人ひとり課題だと思うことや「世界平和」に対する思いを自分の視点で、自分の言葉で真剣に話し、真剣に聴く姿がありました。区のコンテストには校内最終選考に残った児童も応援として同行しましたが、応援だけでなく、全スピーチに対してメモを取り、自分の考えを深めている姿には心を打たれました。

子どもたちの存在そのものが未来への「夢・希望・力」です。考えさせられますね。